

H28年度の主な取組

生涯活躍のまち推進機構の設置(H28～)

多世代交流による豊かなまちづくりを推進するため、市、住民団体、民間事業者等で構成する（一社）三木市生涯活躍のまち推進機構をH29.3月に設立。地域団体との調整や事業を実施する拠点施設の準備を進めている。

24時間健康医療相談ダイヤル(H28～)

H28.8月から健康に対する不安や病気・けがの対応に関する相談窓口を設置。24時間対応で、医師や看護師等の専門家によるアドバイスやカウンセリングを受けることが可能。



実績	件数
H28	1,093
H29	3,338
H30	4,654
R1	3,223

高齢者ファミリーサポートセンター設置(H28～)

地域住民が高齢者の日常生活を支援するネットワーク構築をめざし、H28.10月、高齢者ファミリーサポートセンターを社会福祉協議会内に設置。高齢者を手助けする協力会員(有償ボランティア)と依頼会員(高齢者)との調整を実施。

三木市PR映像の作成(H28～)

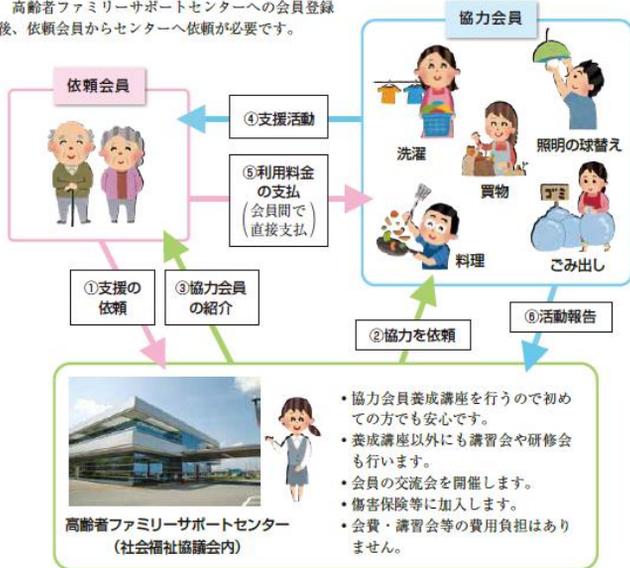
定住移住PR動画を製作。ケーブルテレビCMやシネアド（映画館CM）で放送。また、定住移住パンフレットも作成し、子育て施策を中心に、三木市の魅力をPR。



今回新たに誕生した「三木市定住・移住応援キャラクター」。広報みきH29年3月号でネーミングを募集。⇒「みきるん」に決定！（H29年4月）応募総数402件

高齢者ファミリーサポートセンターの概要

高齢者ファミリーサポートセンターへの会員登録後、依頼会員からセンターへ依頼が必要です。



移住定住PR動画



市民130名がラッキィ池田氏振付のダンスで三木の明るさ、元気を表現。

- ・三木市公式YouTubeチャンネル
- ・市内観光施設及び各種移住関連イベント 等
- ・J:COMチャンネル CM(H28.12～H29.3)
- ・シネアド[神戸2館、大阪1館](H29.3)
- ・ミントビジョン(H29.8)で放映。

移住定住PRパンフレット

- ・市役所関係窓口課
- ・市内外の不動産会社、商業施設
- ・市内公共施設、観光施設などで設置・配布



H29年度の主な取組

生涯活躍のまち推進機構の活動支援(継続)

(一社)三木市生涯活躍のまち推進機構の拠点としてH29.4月に緑が丘事業部・みどりんを開設。併設する「サテライト」で気軽に立ち寄れる相談窓口や多世代の交流によるまちのにぎわいづくりを進めている。また、住民との意見交換の場として「運営協議会」を定期的に行うことで地域の課題・ニーズを把握し、地域に密着した取り組みを行っている。

サテライトを活用して交流イベントや住民との意見交換会を開催



高齢者ファミリーサポートセンター(継続)

H28.10月に開設した高齢者ファミリーサポートセンターをにおいて、高齢者を手助けする協力会員(有償ボランティア)と依頼会員(高齢者)との調整を実施。さらなる事業の充実を図っている。

集合住宅の基本設計(H29新規)

神戸電鉄緑が丘駅西側に集合住宅を建設するという計画であったが、緑が丘地域内で増えた空き家、空き地を活用する施策の推進を優先すべきということから、事業を再検討することとなった。

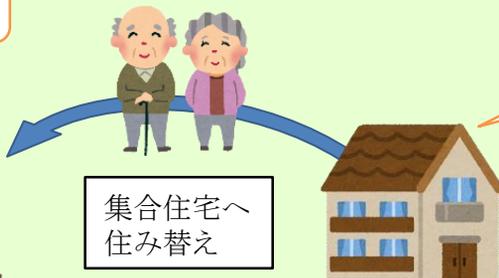
事業断念

集合住宅建設にかかる計画の概要

集合住宅の整備を検討



集合住宅へ
住み替え



若者向け住宅などに
リフォーム



若い世代の
移住・転入

H30年度の主な取組

生涯活躍のまち推進機構の活動支援(継続)

○生涯活躍のまち推進機構の活動支援

民間事業者と連携し、地域住民のニーズやアイデアを聴きながら、健康ステーションの開設やIoTを活用した高血圧症対策、自動運転などの実証事業に取り組んだ。今後は、実証事業の成果について事業化に向けた効果検証を行う。

○健康ステーション事業

H30.6月にみどりん(緑が丘事業部)において健康ステーションを開設した。血圧、体組成、運動機能などの測定及びデータの蓄積により、健康状態を見える化し、利用者の健康意識のさらなる向上をめざす。また、保健師や栄養士などによる相談・指導も行うことで、その効果を高める。

○クラウドワーキング事業

さまざまな人が時間や場所にとらわれない働き方ができる環境整備をめざし、クラウドワーキングを推進する。業務の指導、相談・啓発、仕事の受注を行うクラウドディレクターを中心にワーカーのチームを編成するとともに、コワーキングスペースを整備することで、クラウドワーキングに取り組みやすい体制を整備する。令和元年度の本格実施をめざして事業を進めている。

○2カ所目のサテライトを開設(H31.3)

地域団体の活動拠点をサテライトとし、地域団体による運営を機構が支援する。

みどりん



健康ステーション



高齢者ファミリーサポートセンター(継続)

高齢者の日常生活を手助けする協力会員(有償ボランティア)と依頼会員(高齢者)との調整を実施している。

	依頼会員数	協力会員数	利用件数
H29実績	94※	76※	683
H30実績	119※	75※	662
R1実績	167※	82※	1,079

成年後見支援センター(継続)

成年後見に関する支援・相談および普及啓発を行っている。また、弁護士・司法書士等の関係機関との連携を図るため、「成年後見ねっとわーく交流会」を開催した。

	相談数	専門機関への紹介数
H29実績	105	26
H30実績	104	24
R1実績	110	31

※両方会員含む(H29/4名H30/5名R1/8名)

三木市PR事業(継続)

三木市のPRとして、都営地下鉄での吊広告や、Yahoo!JAPANのバナー広告・移住促進チラシ作成を行った。



緑が丘地区道路整備(継続)

地区内の歩道の段差解消、バリアフリー化により住民が安心・安全に生活するための整備を行った。



工事前



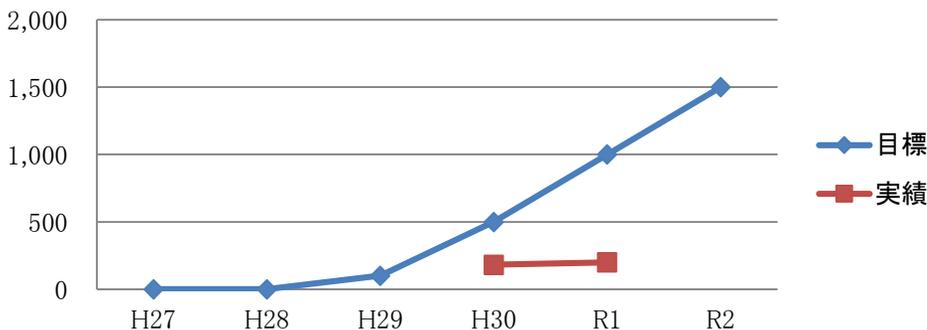
工事後

生活支援サービス拠点利用者数(累計)

緑が丘に設置した生活支援サービス拠点の利用者数

区分	目標設定の 起点(実績)	H28年度	H29年度	H30年度	R 1年度	R 2年度
目標	—	—	100人	500人	1,000人	1,500人
実績	※1 延べ利用者数 ※2 「健康ステーション」会員数		678人※1	181人※2	200人※2	

生活支援サービス拠点利用者数(累計・単位:人)



KPI判定(R1年度)

×

コメント

実証事業、サービス事業等を実施した。延べ利用者ではなく、継続的な利用者数を実績として計上した。

R1年度の主な取組

生涯活躍のまち推進機構の活動支援(継続)

○生涯活躍のまち推進機構の活動支援

民間事業者と連携し、地域住民のニーズやアイデアを聴きながら、IoTを活用した実証事業、共創のまちづくり(リビングラボ)等に取り組んだ。今後は、実証事業の成果について事業化に向けた効果検証を行う。

○健康ステーション事業

健康ステーションにおいて、フレイル予防を目的に、血圧、体組成、運動機能などの測定及びデータの蓄積により健康状態を見える化するとともに、健康測定会や専門職による健康・栄養相談会、調理食事会を定期的に開催した。また、フレイル予防についての講演や健康チェック、相談、健康食品の試食など健康に関する体験ができるイベントを開催した。

○クラウドワーキング事業

R1. 6にクラウドディレクターを配置し、ワーカーチームを立ち上げ、クラウドワーキングを推進した。同時に、ワーカーを募集するためのセミナーや実践講座、スキルアップ講習会等を実施した。現在42名がワーカーとして登録している。令和元年度の受注実績は、343万円となった。ワーカーの内訳は以下のとおり。

ワーカーの内訳・・・男性11%、女性89%。

20代	30代	40代	50代	60代	70代
16%	38%	15%	11%	16%	4%

また、託児スペースのあるワーキングルーム(クラウドオフィス三木)を設置し、コワーキングスペースの運営実証事業を行った。しかし、ワーカーの連絡会や打合せ以外の一般者の利用が少なかったことから、令和2年度の実証は行わない予定。

○2カ所目のサテライトを開設(H31.3)

地域団体の活動拠点をサテライトとし、地域団体による運営を機構が支援した。R1年度は毎月1回、合計11回のリビングラボを開催し、地域課題の掘り起しを行った。R2年度は、R1年度に実施し、地域資源の活用及び地域での新たな交流につながる取組として、古着の交換会を月1回定期的に行う予定。

クラウドワーカー募集セミナーの様子



新聞記事



調理食事会での料理



戸建住宅への移住世帯数

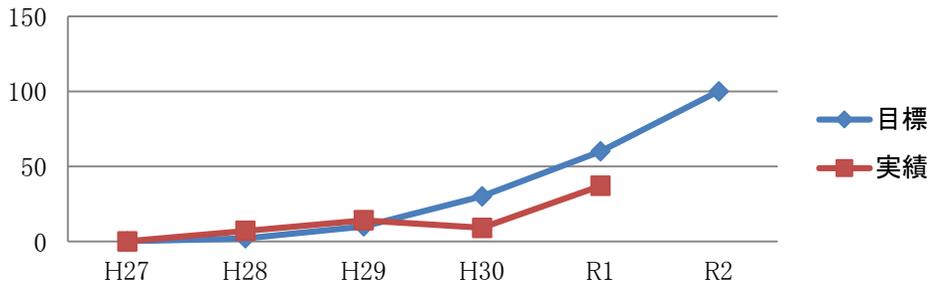
緑が丘地区における戸建住宅を対象に、H27年度の転出入の差を基準とし、増減幅を比較する目標値。

区分	目標設定の 起点(実績)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
目標	—	2世帯 (転出入差 △25世帯)	10世帯 (転出入差 △17世帯)	30世帯 (転出入差 +3世帯)	60世帯 (転出入差 +33世帯)	100世帯 (転出入差 +73世帯)
実績	H27 (転出入差 △27世帯)	7世帯 (350%) (転出入差 △20世帯)	14世帯 (140%) (転出入差 △13世帯)	9世帯 (30%) (転出入差 △18世帯)	37世帯 (62%) (転出入差 10世帯)	

※緑が丘地区への転入出世帯数(市民課アンケートによる集計)

H27年度 : 転入50世帯 / 転出77世帯 / 転出入差△27世帯
 H28年度 : 転入49世帯 / 転出69世帯 / 転出入差△20世帯
 H29年度 : 転入40世帯 / 転出53世帯 / 転出入差△13世帯
 H30年度 : 転入20世帯 / 転出38世帯 / 転出入差△18世帯
 R1年度 : 転入36世帯 / 転出26世帯 / 転出入差10世帯

戸建て住宅への移住世帯数(累計・単位:世帯)



KPI判定(R1年度)

×

コメント

R1年は実績値が上昇し、転出入差がプラスとなった。

整備集合住宅への移住世帯数

再検討

緑が丘駅前に整備予定の集合住宅に住み替えした高齢者の世帯数。

区分	目標設定の 起点(実績)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
目標	—	—	—	—	50世帯	100世帯
実績	—	—	—	—	—	—

※現時点では実績がないため、グラフ表記を省略。

地方創生推進交付金(三木市生涯活躍のまちづくり事業)の執行状況

(H29年度)

※交付金充当額は執行額から対象外経費を除いた額の1/2

交付金対象事業	交付金充当額(実績)※
緑が丘町・青山まちづくりビジョン委員会の活動支援	0千円
地域住民が主体となってまちづくりについて協議する「まちづくりビジョン委員会」の活動を支援した。なお、推進機構の設立に伴い、緑が丘町まちづくりビジョン委員会は活動を終了した。	
生涯活躍のまち推進機構への運営補助金	1,860千円
22ページ参照	
24時間健康医療相談ダイヤル	2,576千円
22ページ参照	
高齢者ファミリーサポートセンター	4,250千円
22ページ参照	
成年後見支援センター	5,500千円
H27.10月に開設した「成年後見支援センター」において成年後見制度の利用を支援した。高齢化の進行により今後ますます同制度への関心の高まりが予想されるため事業のPRを継続していく。	
多世代交流イベント	7,000千円
みっきい夏まつり、さんさんまつりを開催。市内外から多くの来場があり、まちの活性化に寄与した。また、子どもからお年寄りまで皆が楽しく過ごせる交流の契機として大いににぎわいを見せた。	
三木市PR事業	226千円
22ページ参照	
緑が丘地区の道路整備	8,061千円
地区内の歩道の段差解消、バリアフリー化により住民が安心・安全に生活するための整備を進めている。	

合計 29,472千円

千円以下切捨て

地方創生推進交付金(三木市生涯活躍のまちづくり事業)の執行状況

(H30年度)

※交付金充当額は執行額から対象外経費を除いた額の1/2

交付金対象事業	交付金充当額(実績)※
生涯活躍のまち推進機構への運営補助金	6,878千円
22～24ページ参照	
24時間健康医療相談ダイヤル	1,765千円
22ページ参照	
高齢者ファミリーサポートセンター	4,363千円
22～24ページ参照	
成年後見支援センター	4,050千円
24ページ参照。H27.10月に開設した「成年後見支援センター」において成年後見制度の利用を支援した。成年後見制度は、高齢化に伴う認知機能の低下や、障害者の権利擁護の観点から、今後ますます同制度へのニーズの高まりが予想されている。	
多世代交流イベント	1,748千円
みっきい夏まつり、さんさんまつりを開催する予定で準備をしていたが、天候不良のため平成30年度は中止となった。多世代が楽しめるイベントなので、来年度も引き続き開催予定。	
三木市PR事業	437千円
22、26ページ参照	
緑が丘地区の道路整備	9,893千円
26ページ参照。	

合計 29,136千円

千円以下切捨て

地方創生推進交付金(三木市生涯活躍のまちづくり事業)の執行状況

(R1年度)

※交付金充当額は執行額から対象外経費を除いた額の1/2

交付金対象事業	交付金充当額(実績)※
生涯活躍のまち推進機構への運営補助金	5,659千円
22～26ページ参照	
多世代交流イベント	7,000千円
今年度は、多世代が楽しめるイベントとして、みっきい夏まつりやさんさんまつりを実施できた。	
緑が丘地区の道路整備	2,316千円
26ページ参照。	

千円以下切捨て

合計 14,975千円